

〇在京石鳥谷 町人会だより

(題字 旧石鳥谷町長 高橋 公男 氏)

<連絡所> 在京花巻ふるさと会事務所

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-4-8

東京中央ビル603号室

TEL 03-6256-8082・FAX 03-6526-8083

<事務局> 〒187-0031 東京都小平市小

川東町1817-39 大竹雅夫方

TEL : FAX 042-332-3025

しめらむし



在京石鳥谷町人会
会長 高橋弘美

会員の皆さま、こんにちは。高橋弘美でございます。

皆さまにおかれましては、お健やかに過ごしていることとお慶び申し上げます。

平成29年初回の「町人会だより」をお届けするにあたり、まずは昨年中に皆さまから在京石鳥谷町人会に寄せられたご支援、ご協力に対しまして心より御礼を申し上げます。

さて、今冬は皆さまの様子もご心配でしたでしょうか。私が生活しております関西圏及び中国・山陰地方では例年になく雪が多く、特に広島や鳥取では30数年ぶりの大雪に見舞われ、TVニュースに映し出される映像はまるで東北地方そのものようでした。広島ではオバマ前米大統領が演説した原爆記念公園や原爆ドームも雪にすっぽり覆われました。鳥取では兵庫や岡山に向かう

道路を走る車が雪で立ち往生、20時間以上動かない状態が発生したため沿線の住民や自治体の職員の皆さんが炊き出しを行いました。

一方関西のスキー場は例年雪不足に悩まされることが多いのですが、さすがに今年は悩んでいる人はいなかったみたいです。又京都でも積雪の回数が多く、観光名所の金閣寺では素晴らしい雪景色が出現しました。

たまたま仕事で京都に行っていた私の同僚がチャンスとばかりに金閣寺に立ち寄りてみたところ、ガイドから「こんなに素晴らしい雪の金閣寺は日本人でもなかなか見ることができない。この景色を楽しめる皆さんは本当にラッキーですよ」と説明を受け、狂喜して大騒ぎをしている中国人観光客が一杯いたとのこと。被害を受けた人、観光でラッキーだった人、スキーやスノボを目いっぱい楽しんだ人、いつもながら明暗を分ける雪っこだべなあと感じた次第です。

そして季節は春爛漫を過ぎはや初夏に向かおうとしています。ふるさと石鳥谷はこれから桜の季節を迎える頃でしょうか。年度も替わり、街中には新入生、新社会人が目

立つようになり何かと活気づいてくるこの時期、われわれ在京石鳥谷町人会の役員の方々も本格的な準備に活気づいて参りました。といたしましては毎年開催しています「ふるさと復興支援ツアー」の今年の幹事役は石鳥谷町人会だからです。ふるさととの絆を一層強くし併せて大震災の復興も微力ながら支援しようとするこの企画は今年で7回目を迎えます。ツアーの内容は本号のコナーに記載してありますが、今回の目玉は9月の「いしどりやまつり」に皆さんをご案内しようというものです。まつりを運営・参加されている方々との交流の場も設け、絆を一層深めていきたいと思っておりますので多くの方のご参加をお願いしたいと思います。

このように今年も役員一同頑張っておりますが、なにぶん役員の手が足りません。会員のなかで手伝ってもらいたい、と思っております。是非手を挙げて頂きたいと思っております。一緒にわが在京石鳥谷町人会を一層楽しく活発な団体にしていきますか。

「ご連絡お待ちしております」

平成 28 年度在京石鳥谷町人
会総会滞りなく終える

平成 28 年度在京石鳥谷町人会
総会・親睦交流会は、11月6日、
上野野精養軒にて花巻市や近隣
のさと会からの御来賓、石鳥谷各
地区の協議会等からの出席者を
含め、149名の出席のなか盛大に開催
されました。

冒頭、物故会員への黙祷で始ま
り、在京石鳥谷町人会の会歌（「朋
友」斉唱、高橋会長の挨拶の後審
議に入り、平成 27 年度事業報告・
収支決算、同 28 年度事業計画
（案）・収支予算（案）はいずれも
原案のとおり承認されました。な
お、任期満了に伴う会長・副会長・
幹事・監事・顧問の役員改選につ
いても、全員再任されました。

総会終了後、会員同士の親睦交
流会では、乾杯の後、八重畑五大
堂神楽や民謡等の郷土芸能、石鳥
谷町人会女子会員によるフランダ
スが披露され満場の喝采を浴びて
いました、そのほかアトラクショ
ンとして毎年お楽しみとなってい
る石鳥谷町人会協賛の企業様から

のご提供による特産品の抽選会
（空くじなし）が行われ、会場内
からは歓喜の声とともに拍手喝采
が起り、大いに盛り上がりまし
た。

名残惜しくも 最後となり、地区
ごとの集合写真撮影のあと、出席
者全員で「石鳥谷音頭」の歌にあ
わせて会場外側のテーブルを囲み
輪になって踊りました。この瞬間
みなさん気持ちはひとつになった
にちがいありません。そして、ふ
るさとへの想いを新たにしたこと
でしょう。

なお、平成 29 年度の在京石鳥谷
町人会総会・親睦交流会は、11月
5日（日）、本年度と同じく上野野
精養軒にて開催する予定です。
会員の方におかれましては、知り
合いの石鳥谷町出身の方やそのご
家族等関係者の方などに積極的に
お声かけいただき等のご協力を
お願いするとともに次回も是非ご
参加いただきますようよろしくお願い
いたします。

（以下のスナップは、28 年度の親
睦交流会でのヒトコマです）



優雅に勇壮に権現舞など披露

五大堂神楽—花巻市指定無形民俗文化財（八重畑地区）

町人会親睦交流会では郷土芸能の公演が恒例行事となっています。今回は花巻市指定無形民俗文化財に指定されている五大堂神楽(早池峰大償流山伏神楽)が披露されました。多彩な装束をまとった神楽衆の、時に激しく、時に優雅な舞いに見入り、抑揚のある太鼓や手平鉦の囀りにひきこまれ、十分堪能することができました。ご多忙のなか遠路はるばるご公演いただいた五代堂神楽会長の高橋賢様を始め、演舞いただいた皆様方にあたためて、お礼と感謝を申し上げます。以下、高橋様、中学生の二人から文章をお寄せいただきましたのでご紹介します。

在京石鳥谷町人会親睦交流会に参加して

五大堂神楽 会長 高橋 賢



中学生になると勉強やクラブ活動などで帰りが遅く、疲れて神楽を続けることがなかなか大変なことです。例年中学生になると神楽から遠ざかれます。

中学生になった子供達から秋頃だったと思いますが、神楽を続けたい、教えてほしいと言っていました。

私たちは感激し小躍りました。この子供達の神楽に対する思いを話しかけ、練習は毎週火曜日夜7時か

らしく、新しい舞「下舞(権現舞の前舞)」や「つげ獅子」を指導するようになった。なかなか思うようにはいきませんでした。既に習得している「三番叢」を公民館主催「祝いの会」で披露したり、ご家族と交流会を開いて理解と協力をお願いし気持ちをつないできました。

それぞれに進級した4月、大人の舞手達が自分で舞い甲斐のある動きのいい舞い「八幡舞」を子供達にと思いい立ち、大人達の新たな指導がはじまりました。そうした中で、八重畑コミュニティ協議会会長から在京石鳥谷町人会出演のお話があり、子供達の演舞ができればとのことでした。この時から子供達も大人も気運が高まり練習に熱が入りました。

演舞時間もあり、子供達の演目は「八幡舞」、保存会は「権現舞」。子供達男子は八幡舞の舞手、女子は八幡舞権現舞通して手平鉦。練習は毎回、皆で三番叢を舞い体をほぐしそれからです。時間は一時間あまりのことでしたが、熱が入り時の経つのも気がつかず「続ける」のがついででした。

「八幡舞」には神楽のすべての舞の基本の手が組まれており、次の新しい舞を習得するには必須の舞です。次の

舞に挑戦するとき必ずや八幡舞の手があり神楽の面白さに気づくことと思います。舞、太鼓、笛、手平鉦、舎文、神楽拍子にからだは自然に動いてきます。

何よりもご家族の応援そして熱い思いに子供達、大人達も奮い立ちました。五大堂神楽の伝承に大きな力をいただきました。

町人会の皆様には、私どもをあたたくくお迎えいただき精一杯演舞することができました。大きな拍手とご声援をいただきありがとうございました。あらためて御礼申し上げます。



ミスをしないうちに

精一杯舞いました

石鳥谷中学校 2 年 杉原 幸太



僕が五大堂神楽を習い始めたのは、小学校 4 年生のときでした。一歳上の姉が五大堂神楽を習っていて、面白そうだと思ったからです。最初は手平鉦を教えていただき、大償流神楽の後援者交流会や地区の行事のときに出演していました。そして 6 年生のころには三番舞を舞っていました。

中学校に入学してからは学習や部活が忙しくなり、一度習ったのをやめました。しかしもう一度習いたくなり、一緒に習っていた友人もさそって、一年生の冬から再び通い始めました。

2 年生になったころ、八幡舞を教わり始めました。一つ一つの動きを詳しく教えていただいていたのですが、夏のある日、神楽の会長さんから、東京で神楽を舞いませんかと言われました。在京石鳥谷町人会の総会・交流会が 11 月にあるのでその会場で、というお話でした。やりますと返事をしましたが、本音ではできるかわかりませんでした。

それから本番に向けて練習を始めました。あつという間に秋がきて、本番の 3 週間ほど前にやっと全部を舞えるようになりました。東京に行く日が近づくと、しっかりできるか分からないという緊張で、東京に行けるといっわくわくした気持ちが混ざっていました。

本番では、とにかくミスをしないう精一杯舞いました。ステージの前に写真を撮ろうと町人会の皆さんが詰め掛けたのですが、全く気がつきませんでした。舞のことに集中していたのだと思います。舞い終えたときはホッとしました。疲れましたが楽しかったです。

後日地区の公民館で反省会をしました。神楽メンバーの方から細かい動きをききつつと身につけばはいついっ

お話がありました。僕も壮思います。これからも練習を続けていきたいと思えます。

町人会での八幡舞の初舞台は

とてもいい体験になりました

石鳥谷中学校 2 年 伊藤 裕祐

平成 28 年 11 月 6 日に上野の「精養軒」で在京石鳥谷町人会親睦交流会に参加した。町人会では、今ちょうど習っている神楽を発表した。

僕は五大堂神楽保存会に入っている。町人会では二人組で舞う八幡舞と同じ学年の杉原幸太君と一緒に舞った。練習は今年の春に始めた。最初に見本の舞を見せてもらった。その時は難しいと二人で話したことを覚えている。そして練習が始まった。舞のはじめの部分だけでも覚えるのに 2、3 週間かかりこの舞の難しさを改めて感じた。その後もめげずに練習を続け、時には覚えるのにも苦戦した箇所もあった。そして本番の 1ヶ月前となり全てを覚えることができた。大きな達成感を味わうことができた。残りの 1ヶ月は細かい部分の直しなどをして舞を完成させることができた。

本番の口をむかえ、八幡舞を舞う初舞台ということもあり、少し緊張していた。だが舞う前に食事をしながらの会話がはずんでいくうちに、だんだんと緊張がほぐれていった。そしてついに八幡舞を舞う時がきた。出だしは良く、二人のタイミングもそろっていた。だが舞の中間を過ぎたところで、僕のかぶとが下がってきた。少し焦ったが、落ち着いて最後まで舞うことができた。終わった頃にはほほ目が隠れていた。それでも舞は失敗することはなかった。とても嬉しかった。

この町人会ではなかなか体験することができない舞台で舞うことができ、いい体験になったと思う。今回の町人会に参加することに当たって会長の高橋賢さんを始めとする五大堂神楽保存会の皆様、「ミニミニティ協議会の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。



ふるさとの山、そして創立百周年
—在京大迫人の集いに参加して—

山口 郁子(新堀出身)



山口さんご夫妻

新堀八幡様の近くで生を受けた私は、奥羽山脈、北上山地(現在は北上高地)、近くには戸塚森の山を眺めながら育ちました。晴れた日は岩手山や早池峰山が顔を出し、その姿に勇気をもらい晴れ晴れした気持ちになったものです。友人にそのことを話すと、彼女の住んでいた花巻市大田から岩手山は見え、早池峰山がかろつじて見えるだけ。思い出は夏油高原スキー場のナイターの灯りだったそうです。山々が見えることを当たり前のように享受していました。が地形により見え方が

違つてくつ気がされ、私の生まれ育つたロケーションの素晴らしさにあらためて感謝しました。

同じ石鳥谷出身の主人と結婚してからは、同じ宗派ながら新堀後方丘陵にある新仙寺が菩提寺となり、盆と正月の年々回、帰省の折に詣でますが、その途中の坂から眺める田園の広がりや奥羽山脈の山並みも素晴らしく、子供の頃には知らなかった眺めにいつも見とれてしまいます。昔、新仙寺の上にあつた新堀城のお殿様も「あっぱれな景色じゃ」と眺めていたに違いありません。

新堀から北上高地に向かって県道102号線を進むと大迫、霊峰早池峰山に抱かれた町です。交通手段もままならぬ頃、大迫から東京を目指した若者がいました。大正5年そんな若者が集まったことが在京大迫人会の始まりとなりました。そしてこの度創立百周年を迎え、ふるさと愛宕山公園に先人たちの尽力を讃え、そしてこれからも続く郷土愛を願つて「郷愛」の記念碑が建立されました。

また、記念事業として「創立百周年・在京大迫人の集い」では、国の重要無形民俗文化財、ユネスコ

無形文化遺産でもある「早池峰神楽」が披露されることになり、平成28年10月30日、日本教育会館喜山俱樂部に近隣ふるさとの皆さまが集いました。

その日、舞われた演目は「翁舞」「天降」「権現舞」の三座。神楽を楽しみに参加した私は一番前に正座して一挙一動見逃すまいと鑑賞しました。神楽の独特なリズムはどこか懐かしく、身体の中に太古からのリズムが受け継がれているのか、不思議に心が落ち着くのを感じました。

会場には早池峰神楽の応援団「ごまごりの会」(大迫町鳥の名をとつて)の方も見えており、神楽に魅了された多くのファンがいることを知り心強く思いました。

神楽鑑賞の後は総会、親睦会と和やかなムードで進み、スピーチでは在京大迫町人会会長の内村正明様をはじめ皆さまが百周年の歴史の重みに触れました。ふるさとを後にした若者が関東大震災、太平洋戦争を乗り越えて、お互いが力となり励まし合いながら切磋琢磨して今日まで続いてきたことは大迫町人会の誇りといえるでしょう。

う。

記念にいただいた創立百周年記念誌の表紙は、平山郁夫画伯に師事された大迫出身の日本画家・村田林蔵さんによる「薫風・早池峰の里」、タイトルは石碑に刻まれた文字と同じ「郷愛」。大迫人の礎がぎっしりつまった冊子に感動して何度も手に取りました。

平成18年、1市3町の合併により、霊峰早池峰山に抱かれた「神楽とワインの里大迫」は、透명한光と風のユートピア「イーハトーブ花巻」に増えた大切な財産です。これからもみんなで大切に守り続けていってほしいものです。



マルカンテパート閉館に想う

大竹伍朗(八重畑出身)

高校を卒業して58年、小生は同じ会社に勤務しております。

今でも現役として接客業務を担当させて頂いておりますが、生活のリズムは波乱万丈であります。

今では物流も多種多様なシステムですが、マルカンテパート創立当時は、社長自らが上京され、弊社(紳士服製造・卸業のサカゼン)で紳士服を購入し、持参出来る数量分を風呂敷で包み持ち帰っていただきました。実に懐かしい思い出になっております。今では信じられない時代でもありました。

郷里「花巻」で、弊社の商品が市民の皆様へ愛されていた事情に、改めて感謝と御礼を申し上げます。お蔭でまで弊社は、現在首都圏に30近い小売店舗(紳士・婦人・インポート・小さいものから大きいサイズまで)を構えております。

商品に絶対の自信をもっており、皆様の信頼と評価に添えていければと思っております。

マルカンテパートが閉館されて

寂しい気持ちですが、郷里でサカゼンが支持されたことに喜びを感じております。

金融機関の支持も受け、「上町家守舎」が6階の食堂を平成29年2月にオープンの手配であり、マルカンテパートの再開が今から楽しみみです。

第37回全日本綱引選手権大会 報告

桜井サト(八日市出身)

第37回全日本綱引選手権大会

は3月5日、駒沢オリンピック公園総合運動場体育館で開催されました。岩手代表いしどりや女子チームは連続18回出場。今年は強力なコーチをお迎えし、メンバーも若返り予選突破目指して挑んだとのこと。予選リーグ戦で7試合行われましたが残念ながら、惨敗に終わりました。一生懸命戦った選手のみなさんはさわやかで素敵でした。初参加の選手が多く来年はもっと強く成ってきますと来年に気持ちの向かっておりました。いしどりのやの応援団は10人たらずでまとまりがなく選手には力にな

れず申し訳なかったと反省。北上市からは男女3チーム応援団は纏まって太鼓登り旗をあげ応援しておりました。応援団のまとまりも大事だと思いました。



石鳥谷町人会主催「お花見クルーズ」

佐藤忠男企画担当

4月3日(月)、日本橋より発着のお花見クルーズを企画、花巻、東和、大迫の各ふるさと会からの参加者を含め27名の参加があり開催されました。今年は寒さが続き昨年比五分咲きと言った感じで少々寂しい感じがいたしました。天気にはめぐまれましたが川面は

陸上に比べ寒かったと思います。船には毛布が用意されていたので助かりました。クルーズ終了後、歩いて4分程の場所にある日本橋では有名な中国料理店「江南春」で中国料理と飲み放題コースを予約し三テーブルを囲み和気あいあいの楽しい食事を催しました。特に瓶だしの紹興酒を十分にいただき食卓もまあまあでした。午後3時にて一本×にて宴席を締めくくりました。来年は4回目のお花見クルーズを予定しております。今年の経験を生かしてもっとすばらしい企画にしたいと思っております是非ご期待をさせていただきます。ようお待ち申し上げます。



2017.04.03 12

上村くるみ著『下町の髪結い師一代記』を読んでー好地出身の小松カツミさんのこと

川村政義(新堀出身)



下町の髪結い師一代記
美容にかけた小松カツミさんの80年

2月の某日、東京は晴れ、気温18度で、気持ちのいい散歩日和の一日でした。この日江東区にある亀戸天神社の境内は満開のピークを過ぎたとはいえ、梅まつりの観梅客と「菜種御供」の参拝客とでにぎわっていました。30数年前に「鬻替(うそがえ) 神事」(鬻烏を木彫りにした「鬻」を新しい「鬻」と取り替える神事)の「鬻」を受けにお参りしたことがありそれ以来の参拝となりました。

亀戸天神社から東の方向に向かい直線距離にして800米、JR亀戸駅北口から徒歩数分の地(江東区亀戸五丁目)に美容室「コワフ

ユール・小松」がありました。小松カツミさんが最初にお仕えた浅草から移って開業したお店です。80歳代(30まで着付の仕事)をされていたようです。現在は、二代目の敏行氏があとを継いでいます。

彼女のことについてはすでに本誌第7号と13号で紹介されていますので、会員の皆さんはすでにご存じのことと思います。特に「巾着」をプレゼントしていただいたことは記憶に新しいと思います。私は平成24年度の石鳥谷町人会にしばらくぶりで出席し、この時にいただきました。カラフルな布地を利用した丁寧な作りでとてもおしゃれでした。いまでも大事にしています。後で美容師であったことの経歴を知って思ったのですが、長年培われた美的センスというものはあらゆる面で発揮されるものだということを再認識したことを覚えていきます。昨年、町人会総会の諸準備のため幹事会の席上、会計担当幹事の山口郁子さんから『下町の髪結い師一代記』という本を紹介されました。「いずれ順番が回って

きたら是非読んで下さい」とのことでした。本の内容は、著者である上村くるみ氏の緻密な取材に基づいた「小松カツミ一代記」で、発行は平成5年11月です。23年も経っており、彼女が紹介されている年齢も80歳代までとなっています。

大正、昭和、平成の三つの時代にわたり、新しい髪形の創造を続けた彼女の美容に対する取り組みの歴史、そして付随する道具や技術の歴史、美容師自身の歴史について語られています。

昭和初年当時、女性の専門職はまだまだ限られており、そのひとつとして髪結いがあったと思います。一人前の髪結いとしての技術を身に着けようと思えば、辛い修行を乗り越える覚悟が必要とされたことでしょう。それを石鳥谷から一人上京してきた女性が新しい環境に打ち勝ち、夢を実現するべく自己を確立していくことになるのです。具体的な苦労や困難を逐一紹介できませんが、美容師として生きていくなかで起こった様々なことに堂々と対峙し壮絶な闘いをいどんだことが

描かれています。関心のある方はぜひ手に取りお読みください。

(参考)

小松カツミさんの略歴を上村くるみ氏の本から引用させていただきました。

○大正2年3月 岩手県稗貫郡石鳥谷町好地に照井甚吉、トメの四女として生を受ける

○大正13年 好地尋常高等小学校卒業。町の郵便局の電話交換手となる

○昭和3年 「髪結い」をめざし上京、勤務先は浅草松葉町の小松美粧院(師匠・小松あやお)

○昭和9年7月 警視庁による美容術試験にトップ合格

○昭和11年5月 年季奉公終える。照井カツミから小松カツミとなる

○昭和11年 小松晃と結婚

○昭和18年 夫の実家である水沢に疎開、その後石鳥谷に移る

○昭和22年 美容師資格試験の管轄が警視庁から都に移る。亀戸の駅近く

に美容室をオープン

○昭和30年 義父兵治死去

○昭和41年 義母あやお死去

第7回ふるさと復興支援ツアーのご案内

在京花巻ふるさと会主催



☆ 日 程 : 平成29年9月8日(金)～10日(日)

☆ 参 加 費 : 39,800円(2伯7食付き)

☆ 申込/問合せ : 在京石鳥谷町人会総務担当 大竹雅夫

TEL・FAX:042-332-3025 携帯電話:090-3471-0487 E-mail:maoh154124@gmail.com

☆ 旅 程

第1日目 9月8日(金)

8:00 集合(丸の内駐車場) 8:15 出発 首都高速・常磐道経由 ⇒ 松島海岸 ⇒ 日本三景松島湾周遊 ⇒ 北上川河口の町石巻市 ⇒ 南三陸ホテル観洋泊

第2日目 9月9日(土)

8:15 南三陸ホテル観洋出発 ⇒ 一関市巖美溪 ⇒ 昼食(花巻市金婚亭にて「わんこそば」) ⇒ 新渡戸記念館 ⇒ 石鳥谷祭り見学 渡温泉泊

第3日目 9月10日(日)

8:30 渡温泉出発 ⇒ 石鳥谷道の駅 南部杜氏伝承館・石鳥谷歴史民俗資料館・石鳥谷農業伝承館(機織り体験)・昼食(りんどう亭にて「ひつつみ定食」)・田んぼアート 12:00 石鳥谷道の駅出発 ⇒ 12:15 東北道花巻インター ⇒ 1845 頃 東京駅前着 解散

平成 28 年度在京石鳥谷町人会総会・親睦交流会収支報告(平成 28 年 11 月 6 日 単位:円)

収入	支出	残高	備考
635,000			会員83名(同伴含)
370,000			招待者からのお祝い 来賓、コミュニティ関係 計66名
	1,357,399		総会準備費(案内状・印刷・コピー)、精養軒、他支払
1,005,000	1,357,399	-352,399	

今後の主な行事(予定)

◆ 11月5日(日) 平成28年度在京石鳥谷町人会(総会・親睦交流会)

- 上野 精養軒
- 11:30～(受付10:30より)
- 郷土芸能の公演は大瀬川地区の皆さんを予定